



市中病院では初、国内4施設目 手術支援ロボット「ダビンチSP」による 肺がん手術を実施

社会福祉法人恩賜財団 済生会支部神奈川県済生会横浜市東部病院（神奈川県横浜市、以下、当院）は、2024年10月に手術支援ロボット「ダビンチSP」を導入し、現在では泌尿器科、産婦人科、外科、呼吸器外科で使用されています。

2025年1月、ダビンチSPによる肺がん手術を実施し、これは市中病院では初、国内では4施設目となります。

東部病院におけるロボット支援手術の現状

当院では、2024年10月にダビンチSPを導入し、既設のダビンチXi 2台と併せ、ダビンチSP1台の計3台体制でロボット支援手術を提供しております。当初は泌尿器科、婦人科領域で使用されておりましたが、今年から外科と呼吸器外科領域での手術も開始し、現在は以下の手術が対象となっています。

泌尿器科	前立腺がん、腎細胞がん（部分切除・全摘）、腎盂尿管がん、副腎腫瘍、腎盂尿管移行部狭窄症
婦人科	良性子宮疾患、子宮体がん
外科	直腸がん、大腸がん、肝臓がん
呼吸器外科	肺がん、縦隔腫瘍

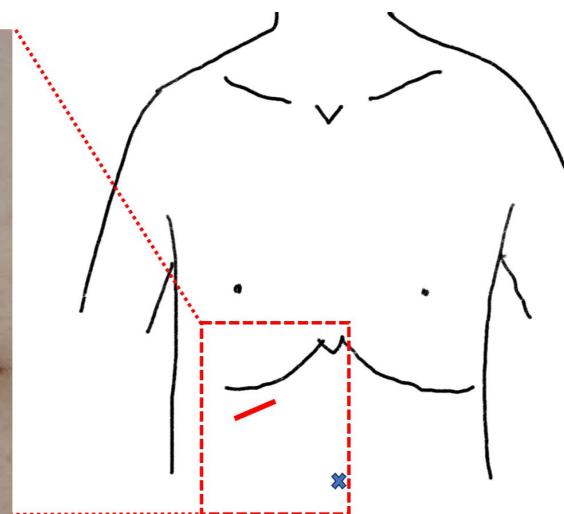
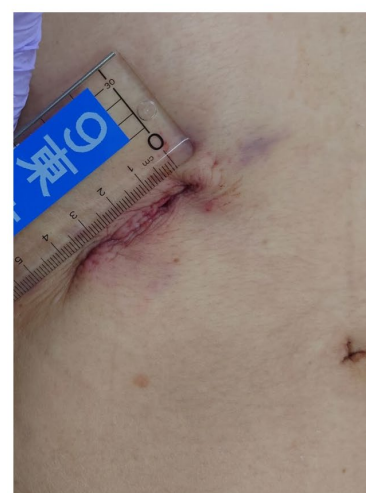


呼吸器外科で実施した、ダビンチSPによる肺がん手術は、0.8～4cm程度の複数の孔で行う従来のロボット支援手術と比べて、4cm程度の孔ひとつで済むことから、患者さんの負担が更に軽減することが期待されます。孔は肋骨の下（お腹）に開けられ、肋骨を切ることが無いのはもちろん、肋間神経が通っている肋骨の間を経由することも無いため、肋間神経の損傷を避けられる画期的なアプローチです。



－呼吸器外科－

呼吸器外科部長
井上 芳正（いのうえ よしまさ）
慶應義塾大1996年卒



近年、呼吸器外科領域ではダビンチXiをはじめとした多孔式ロボット手術と単孔式胸腔鏡手術が急速に普及しつつあります。その中で、この度開始したダビンチSPを用いた肺がん手術は、緻密で複雑な操作が可能なロボット手術と、究極の低侵襲手術とされる単孔式胸腔鏡手術の利点を併せ持つ、世界的に見ても極めて先進的なものです。創が1つのみであると同時に操作性にも優れており、患者さんにとって術後疼痛と整容性の面でメリットがあると考えられます。これからも地域の皆様に「一歩先の医療」を提供すべく精進して参ります。よろしくお願いいたします。